七尾市

地区別復興構想
西湊地区

2025.11

目次

地区別復興構想の策定にあたって---------- 2

七尾市戦略的復興プランとの関連性 ---------- 3

1　西湊地区の現況の整理 ---------- 4

2　地域の課題---------- 8

3　復興まちづくりの方針 ----------10

4　復興まちづくりに向けて考えられる施策----------12

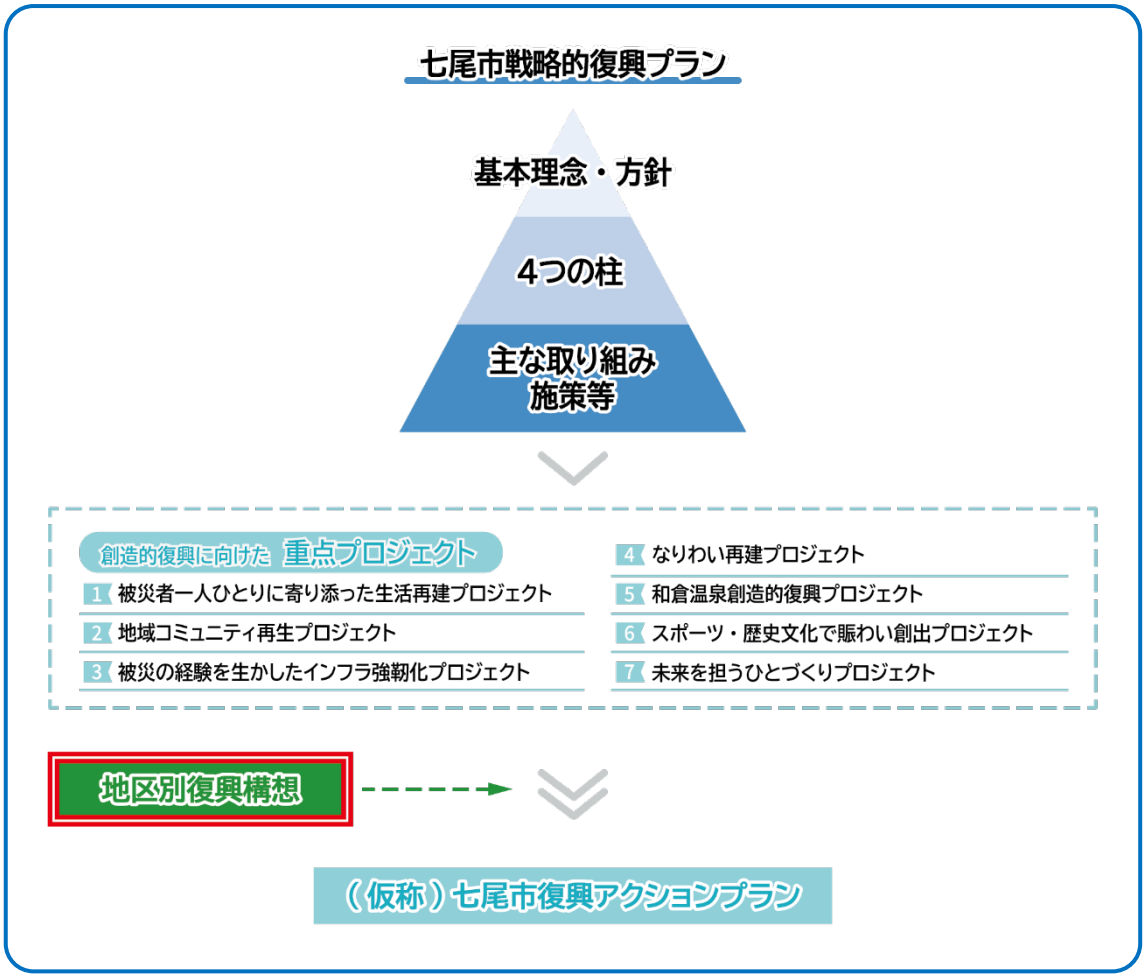
この構想は、復興に向けた課題と方向性を整理したものであり、今後七尾市として事業化の検討を行います。

地区別復興構想の策定にあたって

令和６年能登半島地震により甚大な被害を受けた本市では、震災からの復興に向け、さらに魅力あるまちへ発展していくため、令和７年２月に「七尾市戦略的復興プラン」を策定しました。

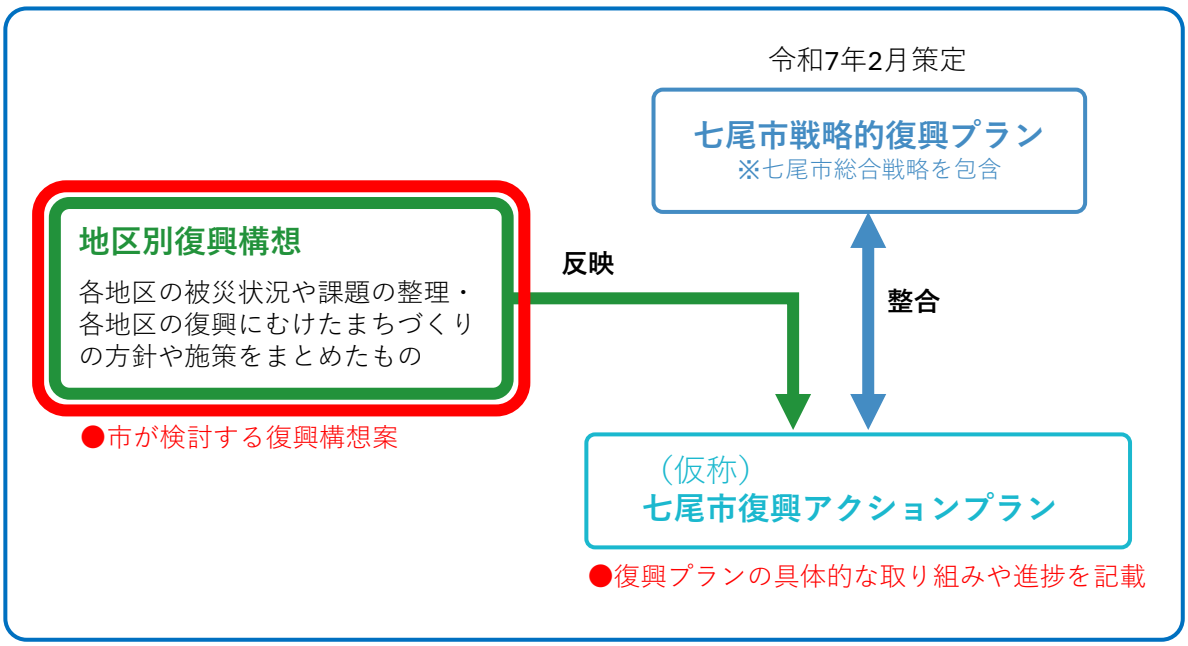
復興のまちづくりの将来像として「すべての暮らしと営みに幸せを～みんなの笑顔が輝くまち～」を掲げて、市民一人ひとりが主体となり、市民と行政が力を結集し、創造的かつ戦略的復興に向けて多くの取組みを実施する必要があります。

これらの取組みの着実な推進に向けて、市内全 15 地区の復興に向けた課題と方向性を整理した「地区別復興構想」を策定しました。本構想をもとに地域の復興への取組みを進めていきます。



七尾市戦略的復興プランとの関連性

市内の各地区において、それぞれの地域特性や被災状況に基づき、「地区別復興構想」を策定しました。これらの構想は、地域の再生と発展を目指すものであり、七尾市復興アクションプランに反映します。これにより、官民が一体となって連携し、創造的な復興を推進していきます。



今年度は、地区単位での復興を推進するため、課題や施策などについて地域づくり協議会と意見交換を実施しました。意見交換会では、「地域の現状と課題」「復興まちづくりの方針」「地域が重要と考える復興に向けた取組み」に対して意見を伺いました。

1　西湊地区の現況の整理

（1）被災状況

七尾南湾の沿岸に位置し、令和 7 年 10 月時点で人口 3,320 人の地区である。昭和 14 年に七尾町および 1 町 5 村（東湊村、矢田郷村、徳田村、西湊村、石崎村、和倉町の一部）、平成 16 年に 3 町（田鶴浜町、中島町、能登島町）との合併により七尾市となる。

令和 6 年能登半島地震により、被災した住家の約 33%が半壊以上の建物被害を受けた。また、道路や護岸などの被害は以下のとおりである。

住宅	被災した住家の約 33%が半壊以上の被害
公共施設	壁の損傷や設備の故障などの被害 （七尾美術館、市民体育館、消防本部･七尾消防署、 西湊地区コミュニティセンター） 小丸山小学校では段差や陥没、消防署訓練場では液状化による被害
道路	海側の市道やなぎの浦･つつじが浜周辺で被害が多く発生
護岸･河川	護岸崩壊が2か所で発生（祖浜川、赤浦川）
公園･緑地	赤浦農村公園で浄化槽の浮き上がりや場内起伏などの被害
その他	斜面崩壊が13 か所で発生 宅地造成被害が7か所で発生 ため池被害が2か所で発生 山の寺寺院群･瞑想の道にて甚大な被害が発生

（2）各種災害におけるリスク

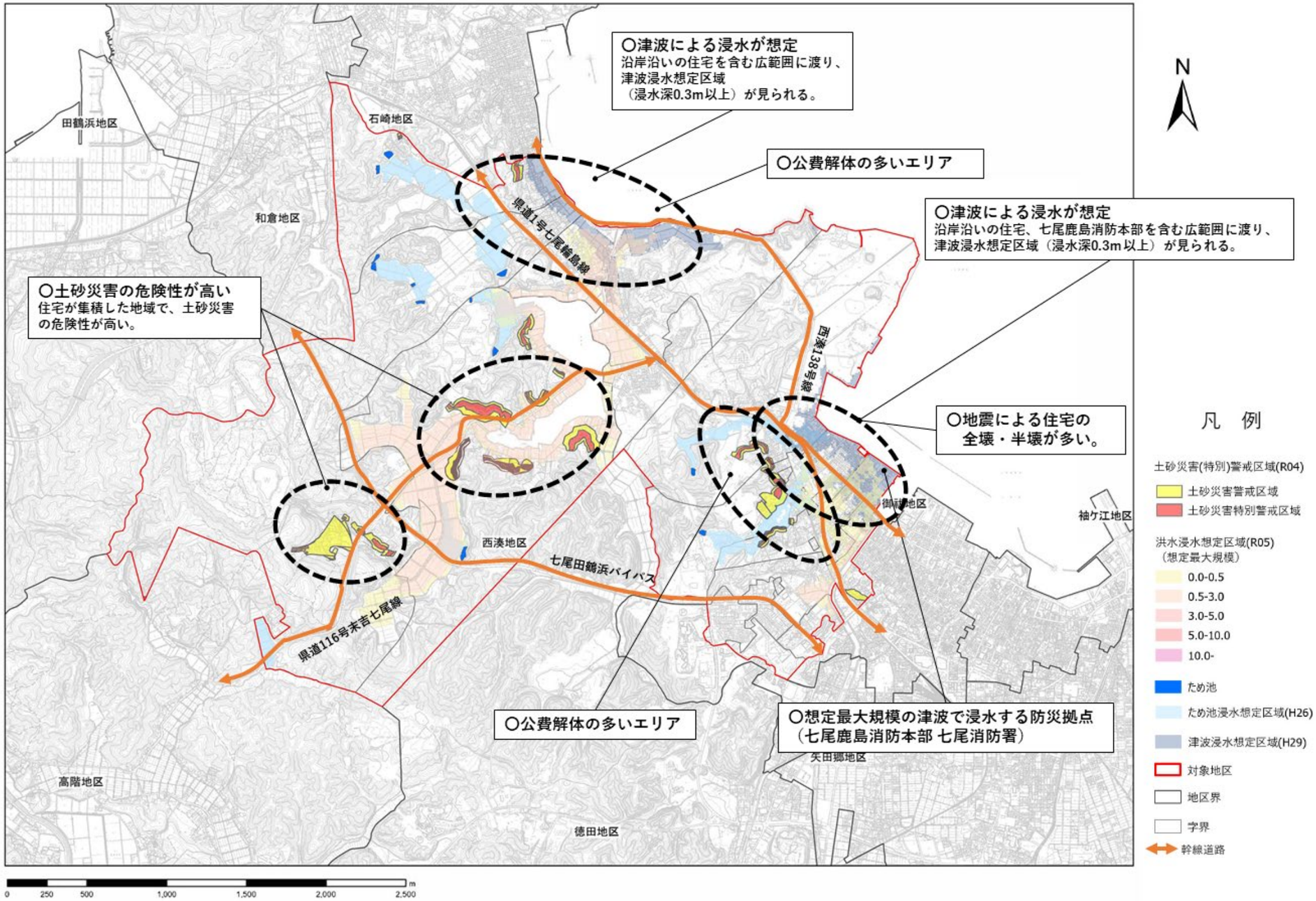
地区内には複数のため池があり、氾濫による浸水リスクが想定され、今回の地震でもため池が一部損傷した。また、海側に面する一部地域では 2.2m 程度の津波による浸水リスクが想定される。

災害時の消防拠点として指定されている七尾鹿島消防本部では、想定災害規模の津波で浸水するリスクが想定される。

その他、以下のような災害リスクが想定される。

津波	祖浜町･新保町･松百町･なぎの浦･つつじが浜周辺で 0～2.2m 程度の津波による浸水リスクが想定
洪水	洪水の浸水リスクは低い
土砂災害	小島町･赤浦町周辺で土砂災害リスクが想定
その他 （ため池氾濫など）	12 か所のため池で氾濫リスクが想定 海側の平野部で液状化のリスクが想定 特に、祖浜町･新保町･松百町･なぎの浦･つつじが浜周辺で液状化リスクが想定

現況分析｜西湊地区


○津波による浸水が想定
沿岸沿いの住宅を含む広範囲に渡り、津波浸水想定区域（浸水深0.3m以上）が見られる。
○公費解体の多いエリア
○津波による浸水が想定
沿岸沿いの住宅、七尾鹿島消防本部を含む広範囲に渡り、津波浸水想定区域（浸水深0.3m以上）が見られる。
○土砂災害の危険性が高い
住宅が集積した地域で、土砂災害の危険性が高い。
○地震による住宅の全壊・半壊が多い。
○公費解体の多いエリア
○想定最大規模の津波で浸水する防災拠点
（七尾鹿島消防本部 七尾消防署）
N
凡　例
土砂災害(特別)警戒区域(R04)
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域
洪水浸水想定区域(R05)
（想定最大規模）
0.0-0.5
0.5-3.0
3.0-5.0
5.0-10.0
10.0-
ため池
ため池浸水想定区域(H26)
津波浸水想定区域(H29)
対象地区
地区界
字界
幹線道路
田鶴浜地区
石崎地区
和倉地区
西湊地区
七尾田鶴浜バイパス
県道116号末吉七尾線
県道1号七尾輪島線
西湊138号線
御祓地区
袖ケ江地区
矢田郷地区
高階地区
徳田地区
0
250
500
1,000
1,500
2,000
2,500
m

2　地域の課題

（1）住宅｜木造家屋の被災と耐震性向上、空き地・空き家の増加

中心市街地に近いエリアでは木造住宅が密集しており、多くの住家が被害を受けた。こうした地域では、空き地や空き家の増加が想定されるため管理や活用について検討が求められている。

（2）くらし｜生活利便性の向上、移住・定住と子育て環境の充実

地区の東側は中心市街地に隣接しているため、スーパーなどの利便性の高い施設へのアクセスが確保できているが、一部集落は中心市街地から離れており、生活利便性の確保が課題となっている。

また、高齢化に伴い若年層の移住・定住の促進が求められ、子育て環境の改善とあわせた検討が求められている。

さらに、地区のコミュニティの中心となる西湊地区コミュニティセンターは体育館を含め施設復旧が完了していない状況である。

（3）仕事｜歴史・文化施設の被害

震災以降、事業者の廃業が増加しており、事業再建や企業誘致などが求められている。

また、地区の観光資源の一つである山の寺寺院群・瞑想の道では地震による甚大な被害が発生している。

（4）インフラ・防災｜津波・土砂災害発生による被害のリスク

海岸線の一部に最大約 2.2m の津波被害のリスクが想定されている。また、集落地の一部では土砂災害警戒区域または土砂災害特別警戒区域に指定されている場所があり、人命や住宅の被害が発生するリスクが特に高い状況である。

また、災害時の要援護者への対応など、ソフト面での防災力の向上が求められる。

（5）交通｜公共交通のあり方についての検討

中心市街地や利便性の高い施設へのアクセス性向上のため、公共交通のあり方についての検討が重要である。また、広域的には、能越自動車道による周辺地区へのアクセスの向上が求められる。

3　復興まちづくりの方針

山の寺寺院群や七尾美術館などの地域資源を有し、中心市街地や和倉温泉とも近い場所にある。これらの地域資源を活用しながら、隣接地区や行政と連携した取組みを推進していく。

復興まちづくりの基本方針

（1）住宅｜居住の考え方

被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻れるよう、住まいの確保、心のケアなど、生活の再建に向けて最優先に取り組む。本地区では、復興公営住宅の整備など生活再建に必要な住居の確保、耐震改修に取り組む。今後、空き地・空き家の増加が見込まれることから、地域と行政で連携した空き家バンク制度の活用促進などを目指す。

（2）くらし｜生活利便性向上の考え方

地域に人が住み続けるために、中心市街地に隣接する立地を活かしながら、一部集落におけるアクセス向上に努め、地区全体として生活利便性の確保を目指す。

また、子どもが安心して遊べ、教育を受けられる環境整備に努め、移住・定住の促進を図る。

（3）仕事｜産業の考え方

震災の影響による地域産業の弱体化を防ぎ、事業の早期復旧および継続を促すため、個人事業主や中小企業へ向けた支援が重要である。また、地区の観光資源を発信していくうえで、周辺の和倉地区や能登島地区との連携を検討する。

（4）インフラ・防災｜安全なまちづくりの考え方

地域の自助・共助を強化しながら、地域単位の安全・安心の確保を目指す。また住まいの再建や耐震改修により防災性の向上を図り、地区全体としての防災力向上を実現する。

（5）交通｜交通の考え方

運行時間や間隔など、適切な公共交通の運行について検討する。また七尾とその周辺地区を結ぶ能越自動車道の整備など、主要な通行機能の確保に引き続き取り組む。

4　復興まちづくりに向けて考えられる施策

令和７年２月に策定した「七尾市戦略的復興プラン」（計画期間：令和６～１０年度）は、市全体の復興に向けた方向性を示したものである。そのため本構想は地区単位での復興を推進するものであり、課題や施策などについて地域づくり協議会と意見交換を実施した。

全２回の意見交換会では、「地域の現状と課題」「復興まちづくりの方針」「地域が重要と考える復興に向けた取組み」に対して意見を伺った。

意見交換会の概要

実施回	実施日	意見交換の内容
第１回	2025/5/21	・震災後の地域づくり協議会の活動状況について ・地域が考えるまちづくりの現状と課題について ・地域がイメージする 20 年後のまちづくりについて
第２回	2025/7/23	重要と考える復興に向けた取組みについて

地域づくり協議会との意見交換会の様子

地域からの意見のなかで、優先順位の高い取組みを、「復興まちづくりに向けて考えられる施策」として以下に記載する。これらの施策と次頁の地図に整理された意見については、関係各課と協議のうえ、事業化に向けた検討を行う。

復興まちづくりに向けて考えられる施策

（1）空き地・空き家｜空き家の有効活用や活用の支援【住宅】

今後空き地の増加が見込まれ、特に小規模な空き地が点在しているため、町の空洞化が懸念されている。空き地へのプランター設置など小さな取組みを含め、空き地の利活用に向けた検討が求められている。また空き地を有効活用するために、土地や住宅の取得に対する補助を充実させることも求められている。

（2）交流｜移住・定住促進に向けた支援【くらし】

これからも地域を維持していくために、移住・定住の促進が求められている。また、移住者の定住につなげるためには、住みよいと感じられるような地域の魅力が重要であるため、移住支援制度と合わせて子育て支援や若者への支援などが求められている。

（3）子育て｜子どもの遊び場づくり【くらし】

子どもの遊び場が不足しており、規模の大小にかかわらず子どもが安心して遊べる場所に対して地域からのニーズが高い。特に、天候や季節、気温に左右されず、いつでも利用できる屋内遊び場の整備が求められている。

また、地域住民のレクリエーションなどの場所として、体育館の復旧やそれに代わる施設の確保も必要とされている。

（4）生活｜移動支援（生活支援）の強化【くらし・交通】

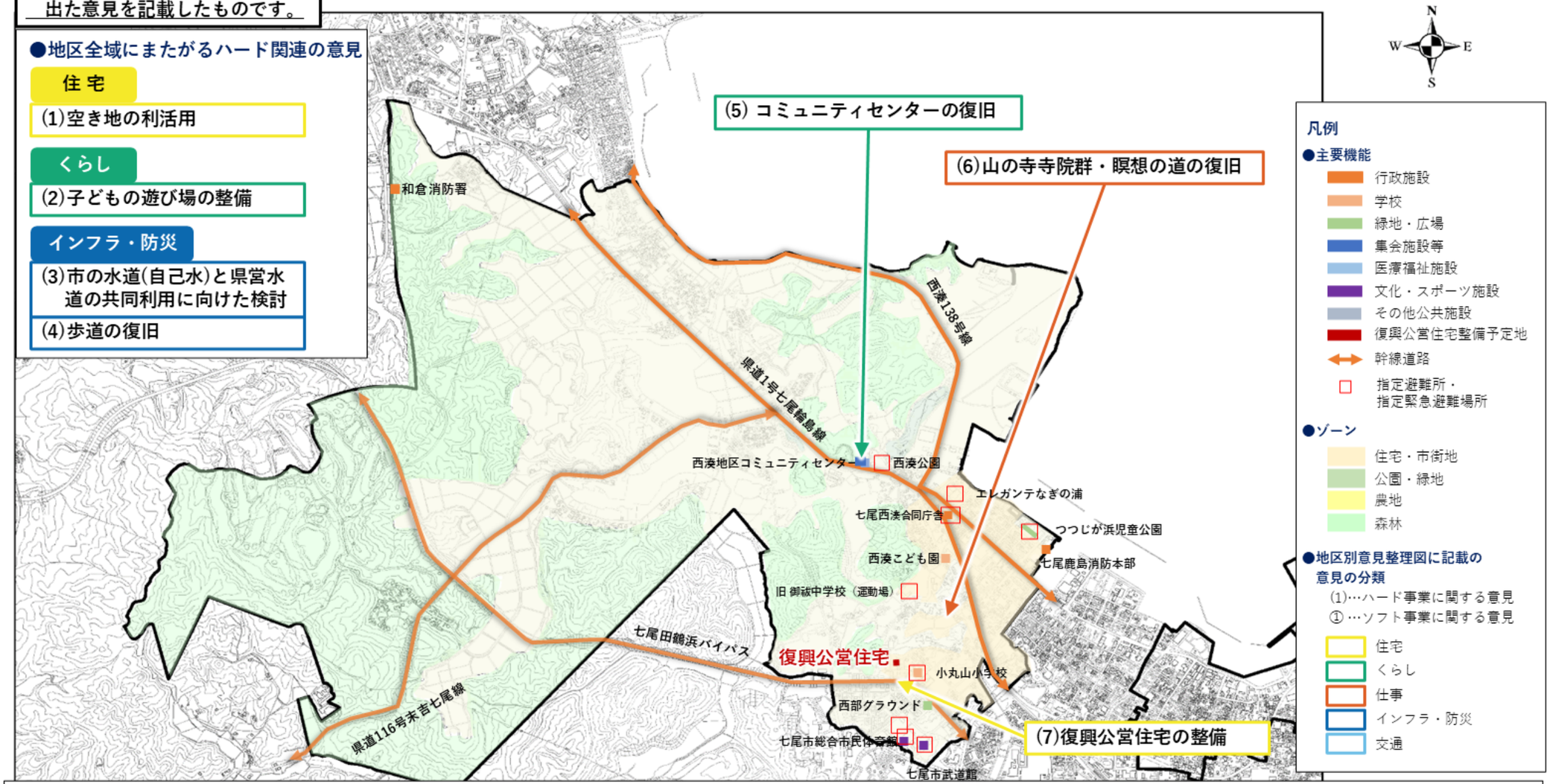
買い物できる場所が少なく、車を運転できない住民のための買い物支援や移動支援が求められている。特に、移動販売への支援や買い物支援におけるサービス向上が求められている。

（5）観光｜観光 PR や地域連携の強化【仕事】

山の寺寺院群・瞑想の道と、観光客が多く訪れる和倉温泉や能登島などを観光コースとして一体にすることで、地区内にも多くの観光客を呼び込み地域の活性化につなげられる。そのため、実現に向けた連携方法や観光 PR の手法について検討が求められている。

地区別意見整理図｜西湊地区

※この地図は、意見交換会の中で出た意見を記載したものです。



●ソフト関連の意見

住 宅
- ①空き家の改修支援とあっせん制度等の整備
- ②住宅等の耐震性強化への支援

くらし
- ③学校教育の環境向上

仕 事
- ④小規模事業者の再建支援
- ⑤和倉温泉・能登島と一体となった観光まちづくりに関する検討
- ⑥夜間に営業する施設の誘致
- ⑦地域資源に関する情報発信

インフラ・防災
- ⑧要援護者に関する情報共有

交 通
- ⑨介護タクシーへの助成
- ⑩買い物バスの運行

0　500　1,000　2,000 メートル　縮尺 1:20,000